

増田医師 一つは全体を通しての柔軟性の高さです。私は1年目の4月と5月の2ヶ月間、内科をまわりましたが、その研修期間中、わずかに生じる空き時間も有効に活用したいと考えて、救急医に救急車が来たら知らせてもらうようにお願いしました。そこで救急の初期対応と内科との二つの面から勉強でき、研修医の思いを汲み取ってくれる柔軟な環境があると感じました。また1年目に皮膚科・眼科・泌尿器科・整形外科の中から学びたい2科を選択し、1ヶ月ずつまわるのも特徴的です。今、泌尿器科をまわっていますが、救急外来での対応に役立つと強く感じています。実際、夜間に病棟で膀胱出血に直面した時も初期対応することができました。

麻生医師 2年目の研修科目をじっくりと決められる点もあります。1年目に集中して必修科目を経験した上で、自分に足りなかつたものを考えて選択できる自由度の高さは魅力です。2年目の研修科目は1年目の1月頃までに決めればよく、時間をかけて自分なりのプログラムを組み立てられる良さがあります。

増田医師 外科系の手技も希望すれば数多く経験できます。消化器外科では虫垂炎や腸管切除、腹腔鏡での胆のう摘出などで第1助手を経験しました。1年目12月までの手術症例の経験は2桁にのぼります。もう一つは、病棟管理に主体的に関わることで、患者さんの社会的背景や家庭事情にまで思いを馳せる大切さを知ったことです。同時に、退院調整に医師が積極的に関与していく重要性も理解できました。退院は単に病気を治すことで実現するのではなく、なるべく元の生活レベルに戻せるよう、リハビリで補つてから自宅や施設に帰す努力をする視点が

大切です。地域の中核病院で仕事をする意識が次第に高まっています。

小田医師 大きすぎず、小さすぎない規模の病院ですので、すべての常勤医師の顔がわかります。皆さん、嫌な顔をせずに教えてくれる「温かさ」があります。顔の見える関係でいつでも意見交換ができます。昼食は食堂で上級医と一緒に食べていますし、アフターフォローやは時々ごちそうになることもあります。

自分の時間がしっかりと持てて、暮らしやすい湘南エリア ワークライフバランスも秀逸です

普段は自分の時間などを持てていますか？

小田医師 帰りにくいという雰囲気はなく、自分の時間もしっかりと持てますし、ワークライフバランスに優れた病院です。最初の頃は月1回程度、同期でご飯や飲みに行っていました。大船は横浜にも東京に行くにも交通は便利だし、人も多すぎず、少なすぎず、住みやすい街で気に入っています。

安江医師 鎌倉が近くで街が落ち着いているし、ちょっと行けば海があって、歴史情緒にあふれた素敵な街です。暮らしやすい環境で、研修医が積極的に学んでいく病院ですから、これからも前向きに取り組んでいきます！



小田 秀樹 医師
出身:高知大学



安江 健佑 医師
出身:信州大学